熊ブ聖 1地ム巡野と礼

重 県 生 涯学習センター X 皇 學 館 大学



2024年 10 月 18 日 (金) 19:00-20:30 (開場18:30)



三重 <u>プラ</u>ス 三重 テラス 2 階 コミュニティスペース MIE TERRACE (東京都中央区日本橋室町 2-4-1 浮世小路千疋屋ビル「YUITO ANNEX」)

講師: 板井 正斉さん(皇學館大学 文学部 神道学科 教授)

事前申込制・先着順|受講無料

合

申

① 講座名 ② 名前 (ふりがな) ③ 電話番号 を明記して、

電話・FAX・ホームページ・郵送のいずれかで三重県生涯学習センターへお申込みください。

※ 受講はがきなどは送付いたしません。※ 万一、ご都合が悪くなった場合はキャンセルの連絡をお願いします。 ※ 未就学児の入場はご遠慮ください。 ※ 諸般の事情により、やむを得ず講座を中止する場合があります。

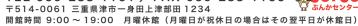


読み比べながら考えてみましょう。

お申込みは こちら

▲ 重線的対象が 三重県生涯学習センター

TEL 059-233-1151 / FAX 059-233-1155





なぜ、 その特徴のひとつに、 若者の道中記と歴史的 熊野を事例に、 今回は世界遺産登録20周年を迎えた そこには聖地をめぐる意味に現代的な変容と あげることができます。 遍的な価値を見ることができます。 若者は神社を目指すのでしょう 記な史料・ 若者世代の参

最近の神社ブー

講座概要

NIPPON

の

原

点 ※を学

፠

=

重

の

魅

力

発

信

セ

Ξ

ナ

I

重 県 生

涯

学

漝

セ ン

タ Ι ×

皇

學

館

大

合

申

最近の神社ブーム。

その特徴のひとつに、若者世代の参拝をあげる ことができます。

なぜ、若者は神社を目指すのでしょうか。 そこには聖地をめぐる意味に現代的な変容と 普遍的な価値を見ることができます。

今回は世界遺産登録20周年を迎えた熊野を 事例に、若者の道中記と歴史的な史料を読み 比べながら考えてみましょう。

2024年 10 月 18 日 (金)

19:00-20:30 (開場 18:30)

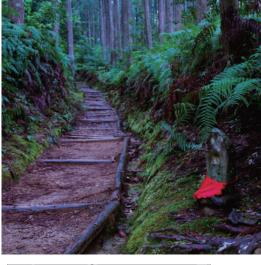
三重テラス2階 コミュニティスペース (東京都中央区日本橋室町 2-4-1

浮世小路千疋屋ビル「YUITO ANNEX」2階)

事前申込制・先着順/受講無料 電話·FAX·ホームページ·郵送にて受付



申込はこちらから





[三重テラスについてのお問い合わせは03-5542-1035まで]

▲ 重線給効化シテ 三重県生涯学習センター

TEL 059-233-1151 / FAX 059-233-1155 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

So!Go!





開館時間 9:00 ~ 19:00 月曜休館 (月曜日が祝休日の場合はその翌平日が休館日)

, 講師プロフィール

板井 正斉さん(皇學館大学 文学部 神道学科 教授)



大分県生 昭和48年

皇學館大学大学院文学研究科修士課程神道学専攻修了 平成12年

ドイツ・ボン大学日本文化研究所客員研究員 平成13年

平成14年~ 皇學館大学社会福祉学部助手·講師·准教授

平成23年~ 皇學館大学現代日本社会学部准教授

平成27年~ 皇學館大学教育開発センター准教授・副センター長(COC担当)

令和 2年~ 皇學館大学文学部神道学科教授



宗教社会学 宗教民俗学 地域文化論



単著『ささえあいの神道文化』(弘文堂) 共編著『ケアと宗教』(明石書店)/共著『聖地巡礼ツーリズム』(弘文堂) 共著『宗教・エスニシティ』(岩波書店)ほか

三重県生涯学習センターのご案内

三重県における生涯学習の拠点として平成 6年に開館し、今年開館30周年を迎えました。 現在、年間 180 回の講座や研修会、小学校等 での文化体験授業などを実施し、合計 1万数 千人の方に参加していただいています。

多様な専門家との連携や協働を重視してい ますが、中でも高等教育機関やミュージア ムとの連携は高度な学習機会の提供につな がり、学習拠点としての役割を発揮してい ます。また、事業の半数近くが地域へ出か けるアウトリーチ事業で地域支援事業、人 材育成事業にも力を入れています。

◆ 皇學館大学 のご案内

皇學館大学は、伊勢の神宮における長い神 道研究の伝統を源流としていますが、明治 15年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達によっ て、神宮の学習所である林崎文庫に開設さ れた「皇學館」を直接の起源としています。 明治33年に神宮祭主の賀陽宮邦憲王からい ただいた令旨には、わが国の歴史に根差し た道義と学問とを学び、実際の社会の中で 実践して、文明の発展に貢献するという、ま さしく本学の建学の精神が記されています。 その根本精神は、現在も皇學館大学の中に 脈々と受け継がれています。

